

環境経営レポート 2024

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日

発行日：2024年6月30日



大栄環境グループ

大栄アメット株式会社

Contents

1.	ご挨拶	P.1
2.	会社概要	P.2
3.	自社施設の紹介	P.5
4.	車両・重機の紹介	P.7
5.	許認可・許可品目	P.9
6.	処理フロー	P.11
7.	環境理念・環境経営方針	P.12
8.	実施体制	P.13
9.	当社活動とSDGsの関わり	P.15
10.	マテリアルバランス	P.16
11.	過去4年間の二酸化炭素排出量の推移	P.17
12.	環境活動計画の評価	P.18
13.	法令順守	P.27
14.	教育(講習)・訓練の実施	P.28
15.	環境活動	P.31
16.	大栄環境グループの取り組み	P.35
17.	代表者による評価と見直しの結果・指示	P.37

1. ご挨拶

私たち大栄アメット株式会社は、京都府福知山市を拠点に近畿地方の北部を主として活動している産業廃棄物処理（収集運搬・中間処理）の専門企業です。

大栄環境グループの一員として、グループの総合力を活かした提案により顧客満足度の向上に努めております。私たちはサステナビリティ基本方針を「未来は、信頼から生まれる。」とし、地域社会を含むすべてのステークホルダーの皆さまとの持続的な信頼関係を構築することこそが、サステナブルな未来へのスタートラインであると考えています。近年物価高によりあらゆるコストが増加し、また人口減少に伴い廃棄物の発生量も減少傾向にある中、我々産業廃棄物処理業者も淘汰されていくと考えられます。

そのような中でこそ、ステークホルダーの皆さまとの「信頼」を根幹とし、環境規制に適合したプロセスを徹底し、廃棄物リサイクル率を向上させ、持続可能な循環型社会の実現に貢献できるよう尽力してまいります。

エコアクション21活動も7年となり、従業員全員参加でPDCAサイクルを回し、エコアクション21の取り組みを活用しコスト削減、CO₂発生量削減に奮闘しています。その2023年度の取り組み内容をこの環境経営レポートに凝縮して掲載いたしました。まだまだ発展途上の取り組みではございますが、最後までご覧になっていただけますと幸いです。

環境管理責任者 大井 智和

2. 会社概要

大栄環境グループの概要

(2024年5月29日時点。ただし従事者数は除く)

組織構成

■ 連結子会社 33社

大栄環境(株)

三重中央開発	DINS関西	株共同土木	株ジオレ・ジャパン	株セーフティーアイランド
株津清運	京都かんきょう株	株神戸ポートリサイクル	大栄アメント株	株クリーンステージ
株徳津	株東北エコクリーン	株クリエイトナビ	株ブラファクトリー	近江八幡エコサービス株
三基開発株	株ソフトウェア トータルサービス	株グリーンアローズ関西	株丸与	株総合農林
株ディンズ環境 分析センター	株大栄環境総研	資源循環システムズ株	DINSみらい株	南戸屋浄水
株アイエスピー・ジャパン	DINS北海道株	忠岡エコサービス株	ディーデザイン株	アイナックフットボールクラブ株
栄和リサイクル株	農事組合法人ねぎぼーず	農事組合法人横の里		

■ 非連結子会社 2社

福知山ゴルフ株	農事組合法人里山
---------	----------

■ 持分法適用関連会社 6社

メジャーヴィーナス・ジャパン株	リエネルミエ株	株シムファイブス	KOBEバイオスウェッジ株
-----------------	---------	----------	---------------

旭鉱石株	北口建設工業株
------	---------

■ 持分法非適用関連会社 7社

株グローバル・エンバイロメンタル・ テクノロジー	株コウキ	株エコクリーン大和郡山	株イーアイアイ
株グリーンアローズ ホールディングス	新エネルギー供給株	かけがわ報徳パワー株	

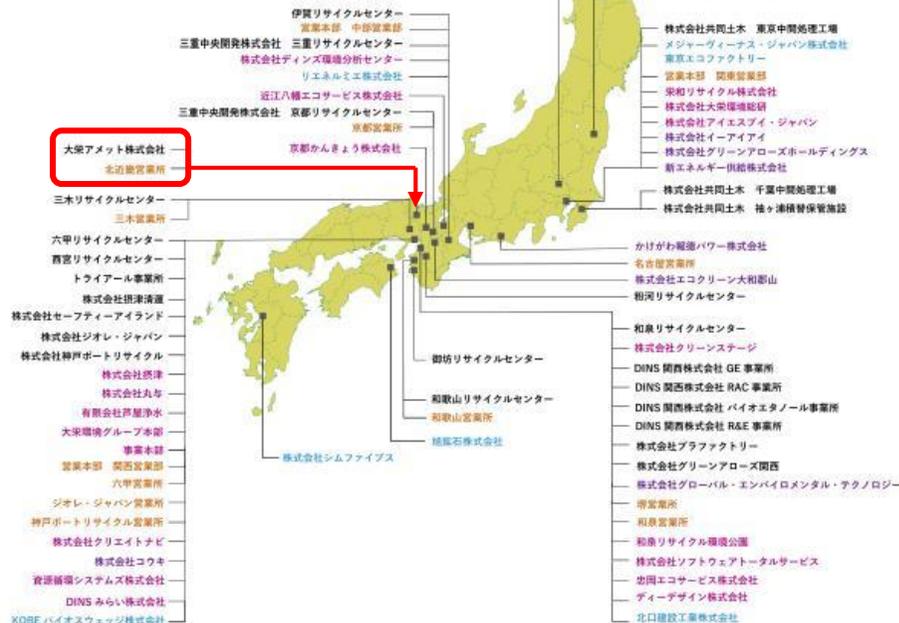
※従業員（臨時雇用者含む）数は、当社及び連結子会社に加えて、非連結子会社を含めております。

2024年4月末時点

従業員数*
(臨時雇用者含む) 2,623人
専属協力会社
従事者数 705人
合計従事者数 3,328人

廃棄物処理・資源循環等事業拠点

大栄環境 および 連結子会社保有	■再資源化施設等 ■その他事業拠点	29ヵ所 20ヵ所
持分法適用 関連会社保有	■営業所 ■再資源化施設等 ■その他事業拠点	13ヵ所 3ヵ所 3ヵ所
持分法非適用 関連会社保有	■再資源化施設等 ■その他事業拠点	1ヵ所 6ヵ所



産業廃棄物処理施設 総許可能力

選別・破碎・再資源化施設	焼却・焼焼	最終処分場 総設置許可容量
55,295 t/日	2,412 t/日	31,860 千㎡

※各リサイクル法に対応した施設を有し、総許可能力の約70%は一般廃棄物処理としての許可も有する。
※8地域で最終処分場の設置許可を有する。

汚染土壌処理施設 総許可能力

熱分解・溶融	洗浄	乾式磁気選別	分別・不溶化・化学脱着
487 t/日	708 t/日	2,520 t/日	8,200 t/日

※上記8地域の最終処分場のうち4地域で埋立処理施設としての許可を有する。

■ 大栄アメット概要

事業所名 大栄アメット株式会社

所在地 京都府福知山市土師宮町1丁目17番地

連絡先 TEL (0773)20-2020 FAX (0773)20-2000

創立年月日 平成2年(1990)5月2日

代表者 代表取締役 大田 成幸

資本金 1億円

事業期間 2023年4月～2024年3月末

従業員数 43名 (男性：29名 女性：14名)

認証範囲 大栄アメット株式会社

対象事業所
本社：京都府福知山市土師宮町1丁目17番地
本部：京都府福知山市土師宮町1丁目38番地
第2処理場：京都府福知山市字正明寺小字向野15番ほか2筆
第3処理場：京都府福知山市字川北小字キロクジ13番11ほか3筆
第4処理場：京都府福知山市字堀小字段畑2885番、2521番
安定型最終処分場：京都府福知山市字北山小字大和垣1番5ほか8筆

事業内容 産業廃棄物の収集運搬・中間処理・最終処分
一般廃棄物の収集運搬・解体工事業

HPアドレス <https://daiei-amet.jp/>



■ 大栄アメント事業所概要

● 中間処理量及び売上高の推移

項目	単位	2020年	2021年	2022年	2023年
産業廃棄物中間処理量	t	32,394	26,156	26,622	25,966
産業廃棄物収集運搬量	t	32,133	29,710	30,629	32,979
一般廃棄物収集運搬量	t	896.7	2,564.2	1,272.4	538.0
産業廃棄物最終処分量	t	19,425	12,982	11,823	13,354
売上高	百万円	920	855	862	860
従業員数	人	44	45	44	43
敷地面積	m ²	25,303	25,303	25,303	25,303

● 家屋等の解体工事

項目	単位	2020年	2021年	2022年	2023年
件数	件	11	15	9	7
内訳	元請工事	2	1	0	1
	下請工事	9	14	9	6
請負金額合計	百万円	24	26	12	12

3. 自社施設の紹介

第3処理場 選別施設

- 処理能力：1,040m³/日
 - 許可品目
 - ・ 廃プラスチック類
 - ・ 紙くず
 - ・ 木くず
 - ・ 金属くず
 - ・ ガラスくず、コンクリート及び陶磁器くず
 - ・ がれき類
- 計6品目

第3処理場では産業廃棄物を受け入れ、効率よく再生可能な廃棄物を選別することにより、埋立処分となる廃棄物を削減するように取り組んでいます。
選別方法や作業工程を定期的に見直すことで、従業員の安全を図るとともに、更なる再資源化率及び作業効率の向上を目指しています。
また2024年2月より処理場のレイアウト変更工事が始まり、搬入車両の動線を一方通行に変更することで積込みや荷下ろしにおける作業の効率化を図り、取り扱い量の増加による売上高の向上にも努めていきます。



重機選別・土間選別

搬入廃棄物を油圧ショベルにて粗選別することにより次工程であるトロンメルの負荷低減及び回収効率の向上を図ります



トロンメル機

ドラム式選別機に混合廃棄物を投入し30mm以下の細かな廃棄物を除去することにより、手選別ラインでの作業が容易となります



手選別ライン

コンベアにより搬送された廃棄物の中から、従業員が手作業により再資源化物を回収しています

第4処理場 破碎施設

- 処理能力：311.2 t /日
- 許可品目：がれき類

第4処理場では、がれき類を破碎処理しグループ会社の施設にて再生破石へとリサイクルされています。またリサイクルが困難な廃棄物については自社最終処分場または、グループ会社の最終処分場で適正に処理されます。



積替保管 施設

- 保管上限：120m³
- 施設面積：306.48m²
- 許可品目：廃プラスチック類
紙くず 木くず
金属くず ガラスくず
コンクリートくず及び
ガラス陶磁器くず
がれき類 繊維くず

積替保管施設は、各取引先等から排出された廃棄物を中間処理施設又は最終処分場へ直接搬入せずに、許可を受けた施設にて一時保管し積替える施設です。

そうすることで、運搬の効率化を図りながら廃棄物の処理コストの削減にも努めています。



最終処分場 (安定型) 埋立処分

- 埋立容量：86,000m³
- 許可品目：がれき類
ガラスくず
コンクリートくず及び
ガラス陶磁器くず

最終処分場では、リサイクル処理が困難で性状が変化しないものを埋立処分しています。事前に埋立処分物の展開検査を実施することで許可品目外の異物混入を防いでいます。

また周辺環境に影響が出ないように配慮しています。

※残余容量（2024年3月27日時点）71,485.0m³



4. 車両・重機の紹介

業務 1 課

重機の概要

車両形式	役割	バケット容量	台数
油圧ショベル	廃棄物の選別・積み込み	0.3~0.7m ³	4台
ホイールローダー	廃棄物の積み込み	2~2.3m ³	2台
フォークリフト	運搬・荷下ろし (コンテナ・フレコン)	2.5~3.5 t	6台
破碎機	廃棄物を細かく砕くことで廃棄物の容積を減らす	4.8 t・311.2 t	2台



油圧ショベル

ホイールローダー



フォークリフト

破碎機



業務 3 課

収集運搬車両の概要

車体の形状		最大積載量	台数
ダンプ	25 t ダンプ車	11,100 t	3台
ダンプ	10 t ダンプ車	9,300 t・10,600 t	2台
脱着装置付コンテナ専用車	10 t コンテナ車	10,600～11,000 t	3台
脱着装置付コンテナ専用車	4 t コンテナ車	3,800 t～3,850 t	6台
キャブオーバ	3 t ユニック車	3,000 t	3台
塵芥車	3 t パッカー車	2,650 t	1台
ダンプ	3 t ダンプ車	3,000 t	1台



3 t ユニック車



3 t パッカー車



25 t ダンプ車



10 t コンテナ車



4 t コンテナ車



3 t ダンプ車

5. 許認可・許可品目

許可証	管轄	優良認定	許可番号	許可年月日	許可有効年月日
一般廃棄物収集運搬業	福知山市	—	福知山市指令第126-1号	2023年 5月 1日	2025年 4月30日
	綾部市	—	綾部市指令第251号	2022年 4月 1日	2025年 3月31日
産業廃棄物処理業 (中間処理(破碎・選別)・安定型最終処分)	京都府	—	第02640000745号	2021年12月13日	2026年 8月25日
産業廃棄物収集運搬業	京都府	—	第02610000745号	2019年 6月 3日	2026年 8月25日
	兵庫県	—	第02808000745号	2021年 4月19日	2026年 4月18日
	大阪府	—	第02700000745号	2021年 4月 9日	2026年 4月 8日
	滋賀県	—	第02501000745号	2020年 3月23日	2025年 3月 2日
	奈良県	—	第02900000745号	2022年12月10日	2027年12月 9日
	三重県	—	第02400000745号	2021年5月31日	2025年11月29日
	福井県	—	第01808000745号	2019年3月5日	2028年11月 9日
特別管理産業廃棄物収集運搬業	石川県	—	第01703000745号	2024年3月18日	2029年3月 17日
	京都府	—	第02650000745号	2019年7月29日	2024年 5月29日 ※1
	兵庫県	—	第02858000745号	2018年11月10日	2028年11月 9日
	大阪府	—	第02750000745号	2022年4月24日	2027年 4月23日

※1 許可更新の手續中

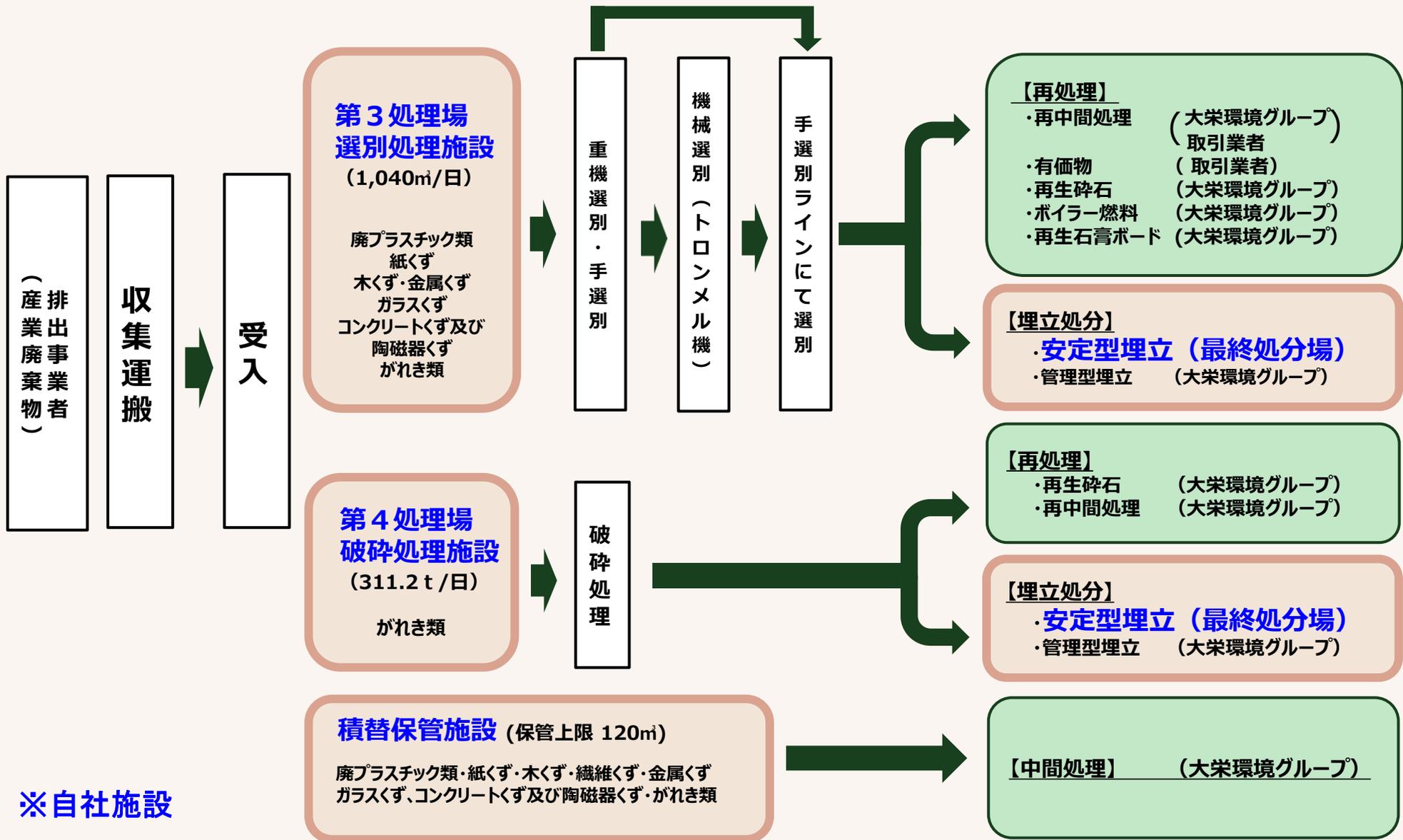
許可	建設業の種類	許可番号	許可年月日	許可有効年月日
一般建設業	土木工事業・石工事業・舗装工事業・水道施設工事業・とび・土木工事業・鋼構造物工事業・しゅんせつ工事業・解体工事	京都府知事(般-1)第32563号	2019年8月6日	2024年 8月 5日 ※2

※2 許可更新なし

■ 許可品目一覧

許可品目		中間処理 京都府	安定型 最終処分	収集運搬										
		京都府	京都府	京都府	福知山市	綾部市	兵庫県	大阪府	滋賀県	奈良県	三重県	福井県	石川県	積替保管
産業廃棄物	廃プラスチック類	●		●			●	●	●	●	●	●	●	●
	紙くず	●		●			●	●	●	●	●	●	●	●
	木くず	●		●			●	●	●	●	●	●	●	●
	金属くず	●		●			●	●	●	●	●	●	●	●
	繊維くず			●			●	●	●			●		●
	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	●	●	●			●	●	●		●	●	●	●
	がれき類	●	●	●			●	●	●		●	●	●	●
	燃え殻			●			●					●		
	汚泥			●			●					●	●	
	廃油			●			●					●		
	動植物性残渣			●			●					●		
	鉱さい			●										
	ばいじん			●								●		
特別管理 産業廃棄物	廃油			●			●							
	廃石綿等			●				●						
一般廃棄物	生ゴミ					●								
	紙類					●								
	布類					●								
	プラスチック類					●								
	ごみ				●									
	粗大ごみ				●									

6. 処理フロー



7. 環境理念・環境経営方針

大栄環境グループ 環境理念

私たちは、事業の社会的責任を強く認識し、最良の技術とサービスにより、人・地域・地球にやさしい企業を目指し、常に挑戦し続けます。

大栄アメット 環境経営方針

1. SDGs・カーボンニュートラルへの積極的な取り組みにより、持続可能な循環型社会の実現を目指します。
2. 環境関連法規、地域の条例・協定を遵守し、地域社会とともに事業を展開していきます。
3. 廃棄物の適正処理・再資源化率の向上及び、事業系一般廃棄物の削減に努めます。
4. 社有車・重機等の燃料使用量及び、電力使用量の削減に努めます。
5. 水使用量の削減に努めます。
6. 当社及び地域の美化、緑化活動に積極的に参加します。
7. 環境経営の継続的な改善を実施します。
8. 環境経営方針は、全従業員に周知するとともに、社内外に公開します。

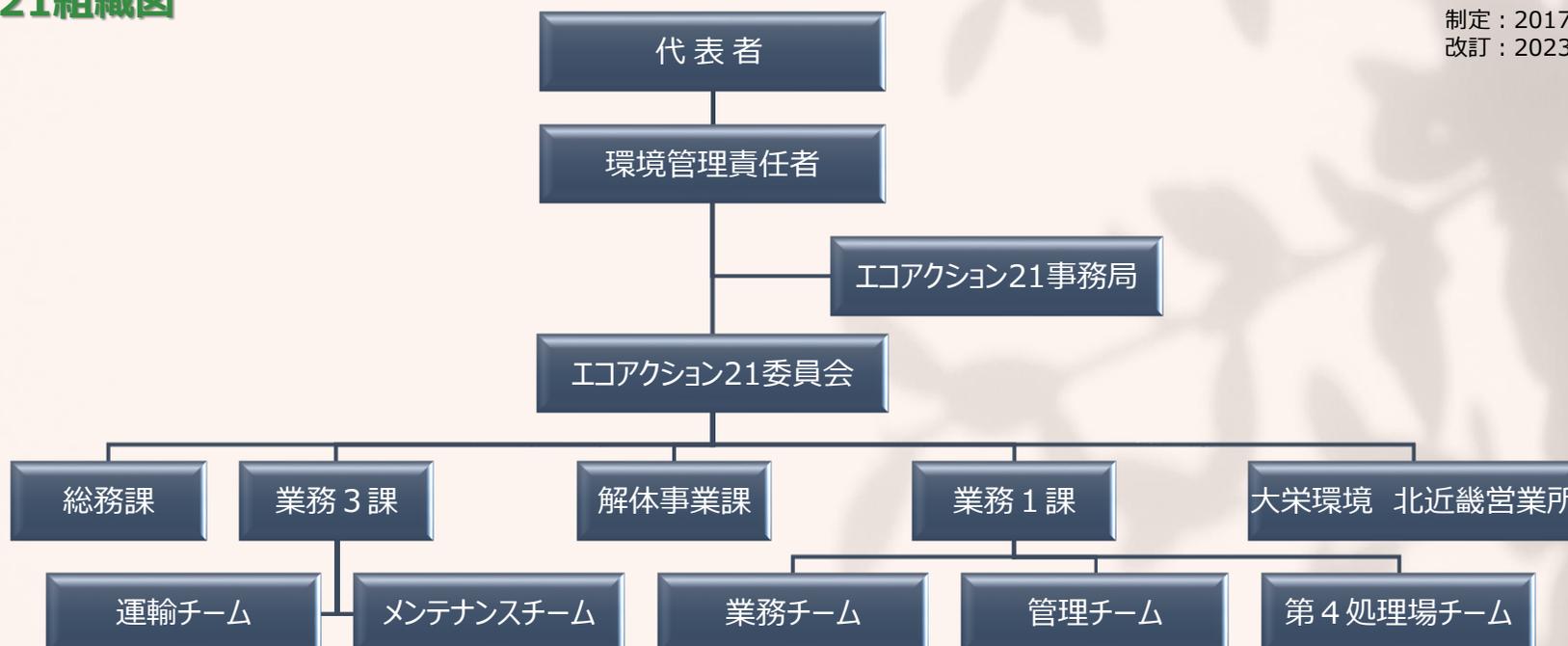
制定：2017年12月1日

改訂：2023年11月1日

8. 実施体制

■ EA21組織図

制定：2017年 7月 1日
改訂：2023年 12月 1日



■ エコアクション21事務局会議

毎月エコアクション21事務局会議を開催して、環境経営計画についての進捗状況等を情報共有しています。また、各課環境担当者からの意見や提案についての議論を行い、環境負荷低減に対する更なる効果的な取り組みを検討し、全従業員の環境活動へのモチベーションアップにも努めています。

- ・ 取り組み内容の継続的改善
- ・ 環境意識の向上
- ・ 意見・情報交換
- ・ 法令遵守状況の確認
- ・ 各種教育実施状況の確認など

■ 環境コミュニケーション

各課においてエコアクション21事務局からの報告・連絡事項の伝達を行うとともに、環境経営計画の目標達成に向けての各種取り組みについて話し合い、実施した取り組みの効果等について意見交換しています。

役割・責任・権限

<p>代表者</p>	<p>事業所の代表者であり、かつ環境経営システムに関する全ての責任と権限を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 環境経営方針の策定及び見直し ② 経営における課題とチャンスの整理、明確化 ③ 実施体制の構築、役割・責任及び権限を定め従業員に周知、経営資源の用意 ④ 環境経営全体の評価、見直し及び必要な指示 ⑤ 環境管理責任者及びEA21委員の任命 ⑥ EA21マニュアルの承認 ⑦ 環境経営目標、環境経営計画、環境経営計画実績一覧表の承認 ⑧ 環境経営目標の取り組み評価と今後の具体策の承認 ⑨ EA21委員会への出席及び議題の審議 	<p>EA21委員会</p>	<p>担当する課の環境経営システム全般を維持・管理する。 (代表者に任命された者)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 担当する課の環境経営目標の策定 ② 担当する課の環境経営計画の策定及び実施 ③ 担当する課の環境教育訓練計画の策定及び実施 ④ 担当する課の緊急事態の特定 ⑤ EA21委員会への出席及び議題の審議、議事録作成 ⑥ 問題点は正処置の実施 ⑦ その他、担当課の環境に関する業務全般
<p>環境管理責任者</p>	<p>代表者に代わり、環境経営システム全体の構築・運用に責任を持ち、それに必要な権限を有する。 (代表者に任命された者)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 代表者へ環境経営システムの実施及び運用状況、実績等の報告 ② 代表者からの指示事項の伝達 ③ 環境への取り組みの自己チェック評価の承認 ④ 環境経営目標の達成状況の評価及び代表者への報告 ⑤ 環境経営計画、環境経営計画実績一覧表の評価及び代表者への報告 ⑥ 環境経営目標の取り組み評価と今後の具体策の達成状況の評価及び代表者への報告 ⑦ 環境教育訓練計画の承認 ⑧ 緊急事態訓練及び作業標準書の承認 ⑨ 環境関連法規順守状況の承認 ⑩ 問題点は正処置に関する承認 ⑪ 環境コミュニケーションの対応に関する承認 ⑫ EA21委員会の召集、出席及び議題の審議 	<p>全従業員</p>	<p>【業務課】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 環境経営計画の実施及び是正・改善 ② 環境教育訓練計画の実施及び是正・改善 ③ 環境関連法規の特定、監視及び評価 ④ 「法令等順守事項月次確認表」の配布及び回収 ⑤ EA21活動の社外PR ⑥ 環境コミュニケーションの対応、管理及び是正処置 ⑦ 管理事務所、植栽、場内導線の管理 ⑧ 収集・運搬関連器材の管理
<p>EA21事務局</p>	<p>環境経営システムの取りまとめ及び維持管理を行う。 (代表者に任命された者)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 環境への負荷の自己チェックの作成 ② 環境への取り組みの自己チェックの作成 ③ 環境経営目標一覧表の作成 ④ 環境経営計画、環境経営計画実績一覧表の取りまとめ ⑤ 環境目標の取り組み評価と今後の具体策の取りまとめ ⑥ 事業所全体に関わる環境教育訓練計画の策定及び実施 ⑦ 事業所全体に関わる緊急事態の特定 ⑧ EA21マニュアルの作成及び維持管理 ⑨ EA21審査人による審査への対応 ⑩ 「法令等順守事項月次確認表」の配布及び回収 ⑪ 環境関連法規の特定、監視及び評価 ⑫ 文書、記録の管理 ⑬ 環境経営システムの事務作業全般 ⑭ 環境経営レポートの作成 ⑮ EA21委員会の召集、出席及び議事進行、議題の審議 	<p>全従業員</p>	<p>【処理・リサイクル課】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 環境経営計画の実施及び是正・改善 ② 環境教育訓練計画の実施及び是正・改善 ③ 課内の環境コミュニケーションの対応及び管理並びに是正処置 ④ 各処理施設棟、休憩所の管理 <p>【解体事業課】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 環境経営計画の実施及び是正・改善 ② 環境教育訓練計画の実施及び是正・改善 ③ 課内の環境コミュニケーションの対応及び管理並びに是正処置

9. 当社活動とSDGsの関わり

	取組事項	3 すべての人に 健康と福祉を	4 質の高い教育を みんなに	6 安全な水とトイレ を世界中に	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	8 働きがいも 経済成長も	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	11 住み続けられる まちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に 具体的な対策を	14 海の豊かさを 守ろう	15 陸の豊かさも 守ろう	17 パートナーシップで 目標を達成しよう
環境目標	燃料による二酸化炭素の削減	●			●					●			
	電力による二酸化炭素の削減	●			●					●			
	水使用量の削減			●							●		
	受託廃棄物のリサイクル率向上						●	●	●				
	一般廃棄物の削減						●	●	●				
CSR アクティビティ	教育・訓練		●			●	●						
	地域貢献活動				●			●	●	●		●	●
	みどりの活動 (グリーンアワード)									●	●	●	●
	安全への取組	●				●							

10.マテリアルバランス

集計期間：2023/4/1～2024/3/31

INPUT

電気	87,819	kWh
ガソリン	5,760	L
軽油	241,194	L
灯油	661	L
上水道水	966	m ³

廃棄物総搬入量
25,965.8 t

廃棄物収集運搬（他社処分）
11,276.5 t

大栄アメット 事業活動

収集運搬

中間処理

搬出

収集運搬業

OUTPUT

CO₂ 排出量

電気	36,708	kg-CO ₂
ガソリン	13,373	kg-CO ₂
軽油	632,007	kg-CO ₂
灯油	1,647	kg-CO ₂
一般廃棄物	701	kg

※2023年度自社排出の産廃は無し

排出量

再中間処理	11,238.0	t
埋立処分	13,354.0	t
ボイラー燃料	990.7	t
再生砕石	550.3	t
再生石膏ボード燃料	240.6	t
有価物	137.8	t

一般廃棄物運搬 **538.0 t**
産業廃棄物運搬
（自社排出分以外） **10,738.5 t**

11. 過去4年間の二酸化炭素排出量等の推移

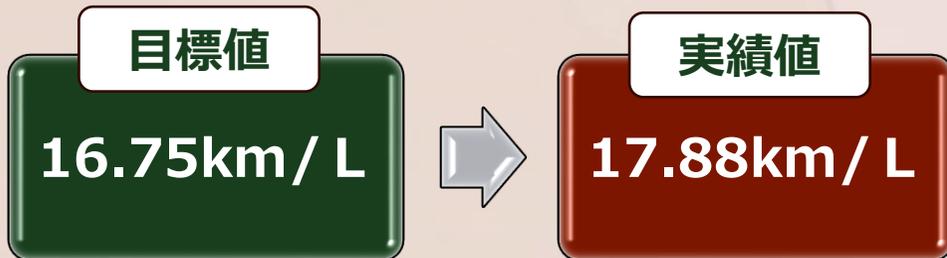
項目		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	793,345	810,725	764,735	683,735
二酸化炭素排出量					
社有車の経済的運転 ガソリン	使用量(L)	6,434	8,062	5,351	5,760
	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	14,937	18,717	12,423	13,373
収集運搬車両の経済的運転 軽油	使用量(L)	225,770	240,011	229,963	206,541
	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	592,498	629,871	603,502	542,034
重機の経済的運転 軽油	使用量(L)	53,861	44,638	40,568	34,284
	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	141,350	117,145	106,464	89,973
灯油使用量	使用量(L)	689	682	810	661
	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	1,717	1,699	2,019	1,647
電気使用量	使用量(kWh)	102,506	103,570	96,477	87,819
	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂) <small>※排出係数0.418(関西電力2017年度)</small>	42,848	43,292	40,327	36,708
上水道使用量					
上水道使用量	使用量(m ³)	1,172	945	905	966
一般廃棄物排出量					
事業系一般廃棄物排出量	排出量(kg)	776	733	702	701

12. 環境活動計画の評価

■ 環境経営目標及び達成状況一覧

目標項目	2023年度			中長期の目標			
	目標値	実績値	評価	2024年度	2025年度	2026年度	
二酸化炭素排出量削減							
社有車の経済的運転 ガソリン (km/L)	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	16.75 -	17.88 13,373.2	○	2023年度目標値 0.5%向上	2023年度目標値 1.0%向上	2023年度目標値 1.5%向上
収集運搬車両の経済的運転 軽油 (km/L)	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	4.17 -	4.21 542,033.9	○	2023年度目標値 0.5%向上	2023年度目標値 1.0%向上	2023年度目標値 1.5%向上
重機の経済的運転 軽油 (L/h)	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	9.915 -	9.520 89,972.9	○	2023年度目標値 0.5%向上	2023年度目標値 1.0%向上	2023年度目標値 1.5%向上
灯油使用量 (L)	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	679.0 1,692.0	661.0 1,647.2	○	2023年度目標値 0.5%削減	2023年度目標値 1.0%削減	2023年度目標値 1.5%削減
電気使用量 (kWh)	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	108,353.4 45,291.7	87,819.0 36,708.3	○	2023年度目標値 0.5%削減	2023年度目標値 1.0%削減	2023年度目標値 1.5%削減
上水使用量削減							
上水使用量 (m ³)		944.9	966.0	×	840	2024年度目標値 0.5%削減	2024年度目標値 1.0%削減
廃棄物排出量削減							
再資源化率の向上 (%)		17.3	14.9	×	2023年度 目標値維持	2023年度目標値 0.5%向上	2023年度目標値 1.0%向上
事業系一般廃棄物排出量 (kg)		764.88	701.07	○	2023年度目標値 0.5%削減	2023年度目標値 1.0%削減	2023年度目標値 1.5%削減

■ 社有車の経済的運転 ～燃費の向上～



結果	取り組み内容
<div style="border: 2px solid red; border-radius: 50%; padding: 10px; color: red; font-weight: bold; font-size: 1.5em;">達成</div>	給油量、走行距離を記録し、燃費データの蓄積
	適切な車両整備の実施
	エコドライブの推進及び実施

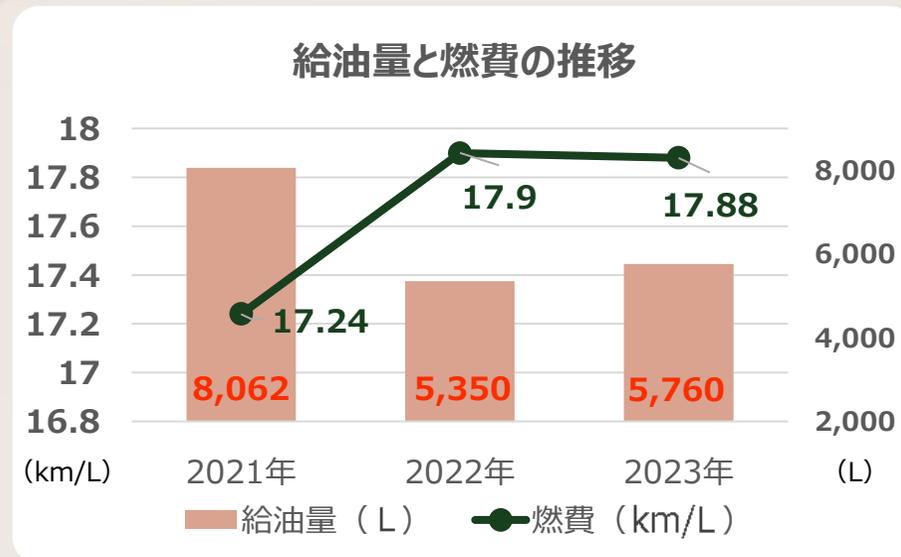
2023年度対象車両（社有車）

- 営業車両 : 2台
- 総務課 : 2台
- 業務3課 : 2台
- 業務1課 : 1台
- 解体事業課 : 3台
- 計10台**



営業車両にEA21ロゴマークを表示

- ☆安全運転日報の記入を徹底しています。
- ☆車両の使用前及び使用後のアルコールチェックを実施しています。



担当者のコメント及び次年度の取り組み

車両の定期的なメンテナンスやオイル交換を実施することで燃費の向上に繋がりました。安全運転日報にドライバー自身が走行距離や給油量等を記入することで、各々が運転特性を把握する機会となり、燃料消費量やCO₂排出量を減少させる為のエコドライブ意識の向上に寄与しています。また各車両の燃費に大きな変化があった際は、事務局員がドライバーへ声掛けを行い原因究明と改善に努めています。

引き続き定期的なメンテナンスを心掛けるとともに、今後は長距離を走行する場合は、燃費性能の良い車両を選定するなど、運用の最適化に取り組んでいきます。

■ 収集運搬車両の経済的運転 ～燃費の向上～



目標値

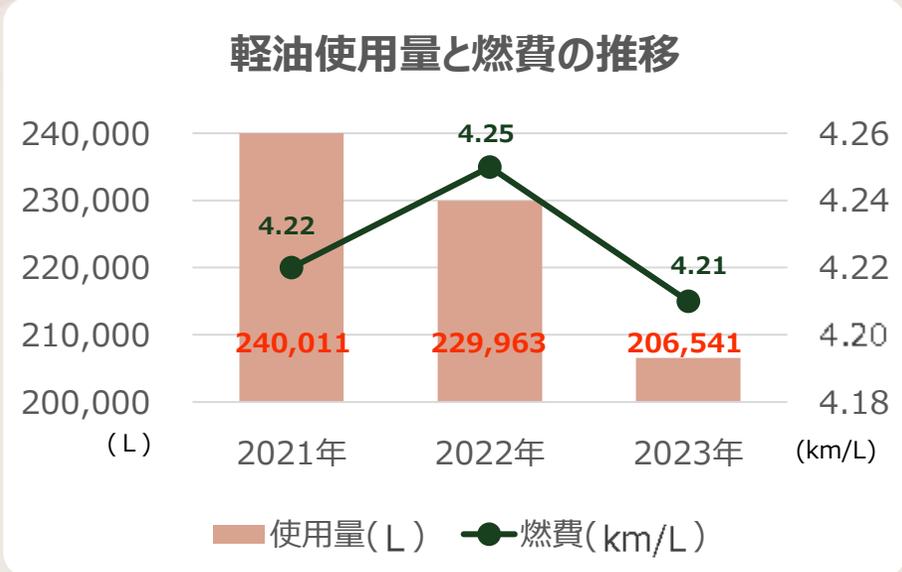
4.17km/L

➔

実績値

4.21km/L

結果	取り組み内容
<div style="font-size: 2em; color: red; border: 2px solid red; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;">達成</div>	給油量、走行距離を記録し、燃費データの蓄積
	適切な車両点検整備を実施する
	給油時の燃費を乗務員自身が表に記入する事で担当する車両の燃費を把握する



各車両 燃費・Co2排出量速報

		7/17(月)	7/18(火)	7/19(水)
車両番号	燃費 (km/ℓ)		6.28	
	Co2排出量 (kg)		233.11	
車両番号	燃費 (km/ℓ)	7.11		6.44
	Co2排出量 (kg)	85.96		172.5

2023年度よりCO₂排出量も併せて記入しています

毎月の安全会議等の機会において、各乗務員にEA21の活動内容の周知及び廃棄物の収集運搬時における注意事項や関連法規等の教育を行っています。

担当者のコメント及び次年度の取り組み

効率的なルートでの運搬を心掛けたことや、乗務員のアイドリングストップの励行・適切な車両整備の実施等により年間目標を達成することが出来ました。

2022年度から開始している各車両の給油時の燃費を乗務員自身で記入する燃費速報ですが、2023年度よりCO₂排出量の記入も開始しました。乗務員から「こんなにCO₂を排出しているなんて知らなかった」との声があり意識向上に繋がっていると感じます。

2024年度の計画値については、2023年度目標値から0.5%向上させた4.19km/Lとなります。引き続き達成出来るよう乗務員への周知・教育を行っていきます。

■ 重機の経済的運転 ～燃費の向上～



結果	取り組み内容
<div style="font-size: 2em; color: red; border: 2px solid red; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;">達成</div>	アイドリングストップを実施する
	搬入量に見合った効率の良い作業で、重機を使用する
	重機のメンテナンス、点検を計画的に実行する

搬入量減少時は、重機を停止させ手選別作業を中心に行っています。



2024年2月より第3処理場のレイアウト変更工事に着工。搬入車両の動線を一方通行に変更することで積み込みや荷下ろしにおける作業の効率化が進みます。



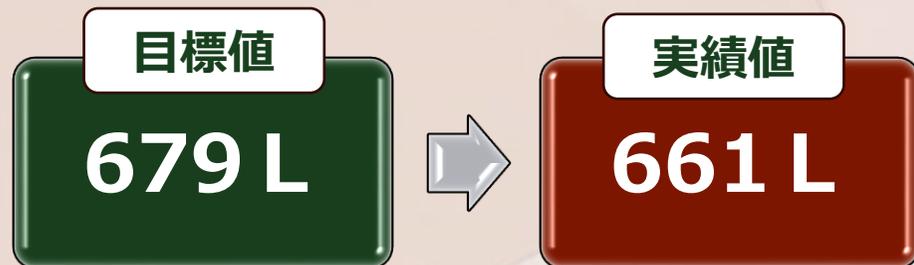
担当者のコメント及び次年度の取り組み

搬入廃棄物の性状確認や搬入量の連絡をタイムリーに行い荷空け場所の選定をスムーズに行うことで作業工程を削減し重機の作業効率が上がりました。

朝礼やミーティングの場ではアイドリングストップの徹底とメンテナンスの重要性を呼び掛け、各重機の点検やフィルター清掃なども強化しました。これらの取り組みの積み重ねが軽油使用量の削減につながったと考えられます。

次年度も引き続き、燃料使用量・燃費を毎月周知し、効率の良い作業方法を随時指示・指導し、アイドリングストップやメンテナンスも強化していきます。

■ 灯油の節約による二酸化炭素排出量の削減



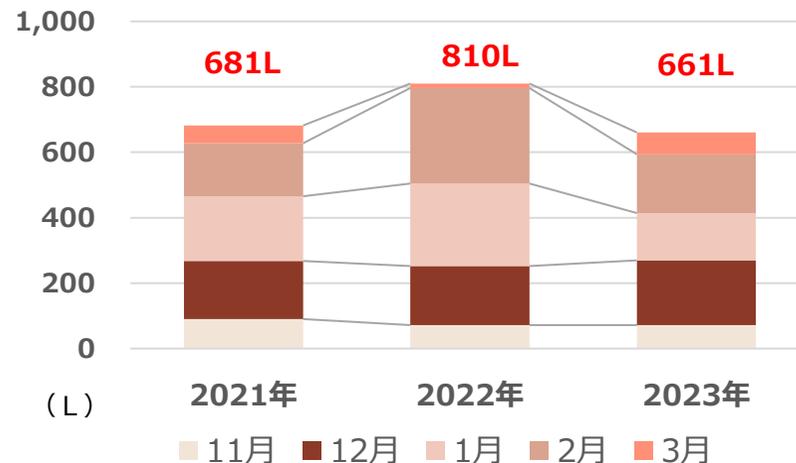
結果	取り組み内容
	灯油使用データを蓄積する
	室内温度を適正に保ち、灯油を節約する



★灯油購入前には各課に事前に購入予定量を連絡して情報を共有する。残量に余裕がある課は他課に分配する。

★室内温度・湿度をチェック！
快適温度になったらスイッチオフ。

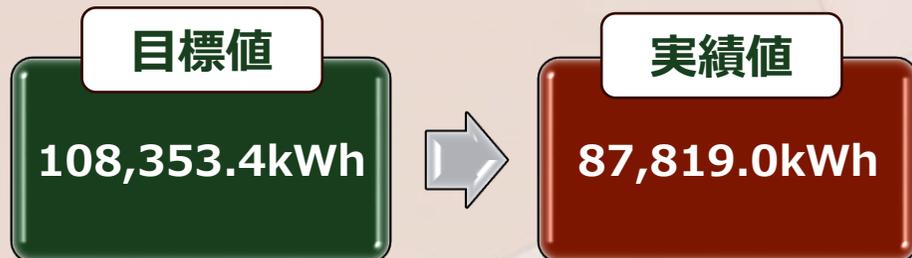
灯油の年間使用量と月別内訳



担当者のコメント及び次年度の取り組み

2022年度と比較して灯油使用量が149L削減でき、年間目標を達成することが出来ました。2022年度は厳冬期にエアコンが故障し、代替品として灯油ストーブを使用したことで灯油使用量が大幅に増加し目標未達成となりましたが、2023年度はエアコンの修理も終わり、概ね計画通りの取り組みが出来ました。各課の担当者が灯油使用量を把握・調整し、他課間と事前に情報共有をしてから灯油を購入することで不要な購入を防止し、余剰がある課は他課に分配することで効率的に購入量を削減出来ました。また基本的には早朝時のみの使用に限定し、温度計を活用して室温管理を徹底しました。引続き灯油使用量の削減により、環境負荷低減に努めていきます。

■ 電気使用量の削減

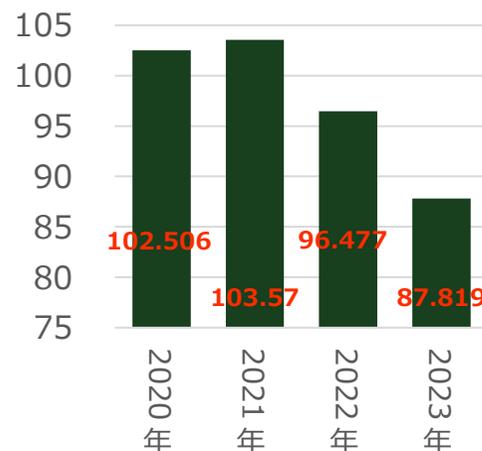


結果	取り組み内容
達成	電気使用量及び料金の把握
	エアコンの使用場所の限定や室温管理実施 (設定温度：夏季25℃以上、冬季23℃以下)
	不要な電灯やPCディスプレイOFFの実践

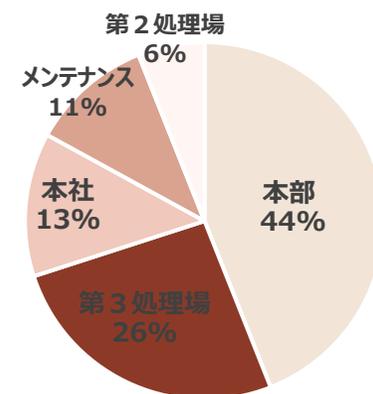


- ① 本部ビル屋上ではソーラーパネルによる太陽光発電を行っています。
- ② 積替保管施設ではLED照明を使用しています。
- ③ 各課・各フロアに温湿度計を設置し、室内温度を管理・把握・調整しています。

実績使用量 (kWh)



2023年度使用割合

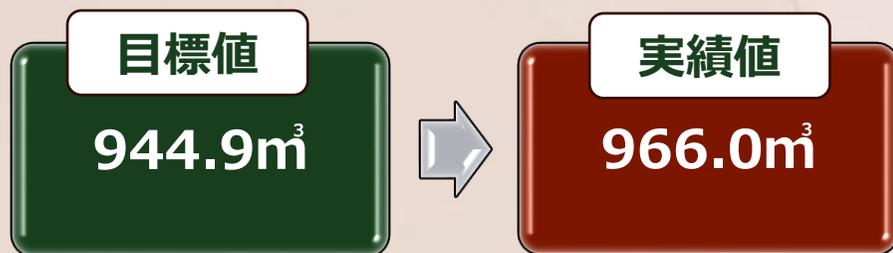


担当者のコメント及び次年度の取り組み

各月変動制の目標値を設定し、毎月の目標値及び年間目標値も達成出来ました。常時温湿度計をチェックし室内温度の管理に努め、エアコンの適正な利用を心掛けた結果、2022年度と比較して電気使用量が8,658kwh削減出来ました。

電気使用割合の高い本部の2階は吹抜け構造となっており、冷暖気が3階へ漏れ効率的なエネルギー使用が難しかったのですが、2024年2月に天井まで届く固定パーテーションを設置しました。これにより室内の気密性が高まり空調の効率が向上、夏季の暑さや冬季の冷え込みを軽減し、職場環境が改善されかつ電気使用量の削減が期待出来ます。引き続き全従業員へ節電を呼びかけ、電気使用量の削減に努めていきます。

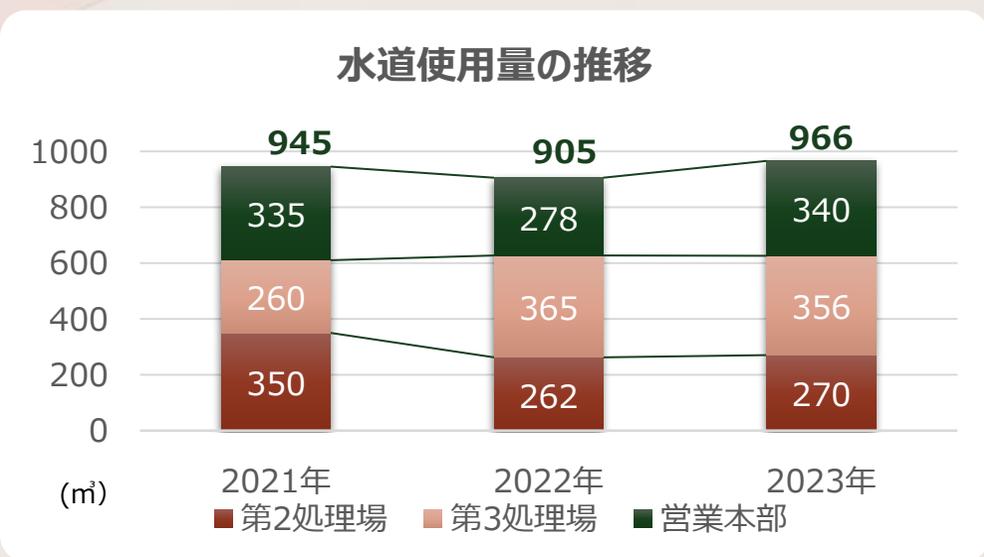
■ 水道使用量の削減



結果	取り組み内容
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;">未達成</div>	使用水量・料金を把握する
	蛇口の閉栓確認
	使用状況を把握する
	節水推奨ラベル等により注意喚起する

- ☆ 毎月の水道使用量を掲示し、取り組み意識の向上を図っています
- ☆ 朝礼時での節水喚起を定期的に行っています

第3処理場の地下水汲み上げポンプ
 保管廃棄物を湿潤させる為の散水は、**地下水**を利用しています

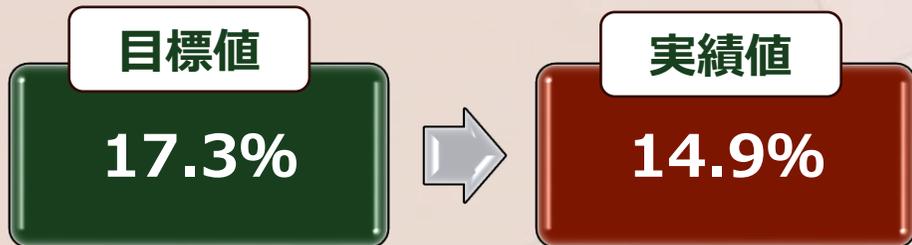


担当者のコメント及び次年度の取り組み

第3処理場では左記汲み上げポンプの設置により水道使用量が大幅に改善しました。第2処理場では大型収集車両の洗車に多量の水道水が使用されていましたが、洗車用ホースの先端を手元で止水できる節水ノズルに付け替えたところ翌月より6m³削減することが出来ました。しかし緑化活動の「グリーンアワード」の取り組みを2023年度から実施したことで、各課花の水やりによる水道使用量が月平均9m³増加し年間目標は未達成となりました。

2024年度はグリーンアワードの取り組みを踏まえた上で目標値の見直しを行いました。季節に合わせた変動型の目標値を設定するとともに、使用量の進捗状況を把握し、継続して節水喚起を行い目標達成に向け取り組んでいきます。

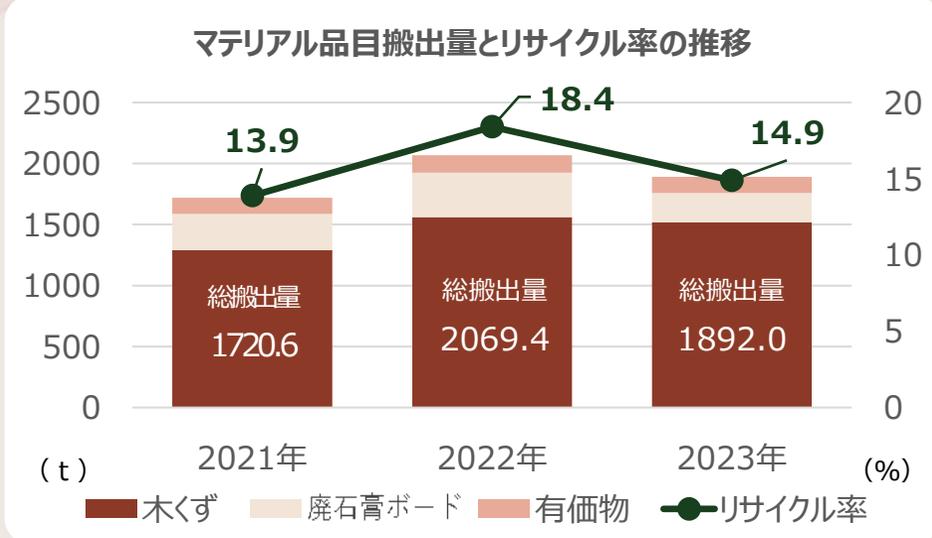
■ 産業廃棄物排出量の削減 ～再資源化率の向上～



結果	取り組み内容
未達成	朝礼時に再資源化強化の呼びかけを実施する
	廃棄物・有価物・選別方法等に関する指導・教育を行う
	廃棄物の性状に見合った効率の良い選別方法を検討する



搬入廃棄物の性状を入念に確認しリサイクル品目を見極め、荷降ろし後は確立された選別フローにて効率よくリサイクル品目の回収に努めています。



担当者のコメント及び次年度の取り組み

朝礼時に進捗状況の報告や抽出強化品目の呼びかけを行い取り組んできましたが目標未達成となりました。搬入された木くずのうち、リサイクル品目として搬出が出来ない生木の割合が多かったことが大きな要因です。また2月以降は処理場のレイアウト変更工事により、処理作業エリアが2か所から1か所と限定されました。その為リサイクル品目の置き場が確保出来ず、木くずと廃石膏ボードの搬出がほぼ出来なかったことも要因の一つです。来期は工事が完工し、処理場内の動線が改善され、作業の効率化が図れます。またリサイクル品目の置き場もしっかり確保出来る為、より抽出に力を入れ目標達成に向けて取り組んでいきます。

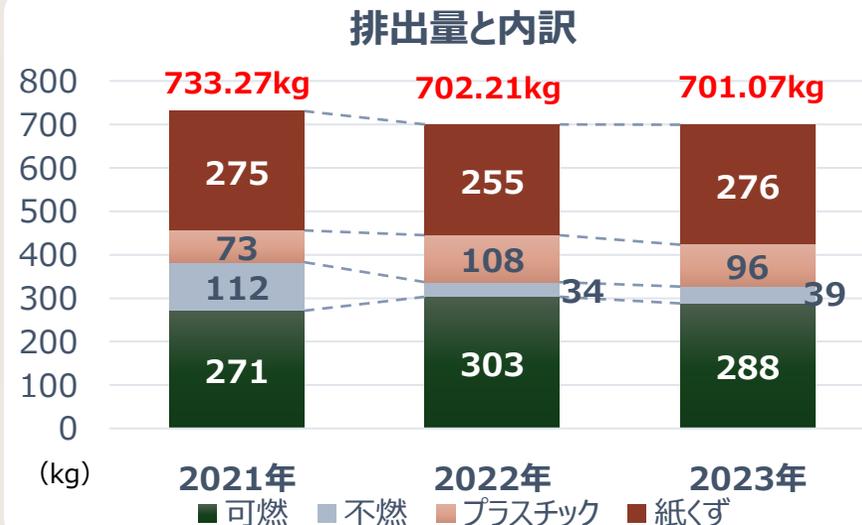
■ 事業系一般廃棄物の排出量を削減



結果	取り組み内容
達成	廃棄物の分別を徹底し、排出量の削減
	プラスチックごみ削減の促進
	用紙の使用量を削減する為、電子データの積極的な活用
	マイ箸や再生利用できる食器使用の推進
	ペットボトルのキャップを集めて計量する。 (溜まったら寄付する)



- ☆ 各ゴミ箱に分別方法を貼り付けて分別を促進！
- ☆ 複合機の横に裏紙置場を設置して利用を促進！



担当者のコメント及び次年度の取り組み

月毎の推移では電子データの利用、裏紙の使用及び両面・集約印刷の活用により、コピー用紙の使用量削減に繋がりましたが、長期間保管していた書類を纏めて廃棄したことにより紙くずの総排出量が2022年度と比較して21kg増加しました。しかし可燃ごみは15kg削減出来ており全従業員の削減に対する意識の向上が見られました。また各ゴミ箱に分別方法の記載をするだけでなく、声掛けによる分別方法の周知を実施したことで昨年度より分別が徹底されました。

次年度はマイ箸やマイボトルの使用率アップや使い捨て用品の削減、更なる電子データの活用を促し、引き続き一般廃棄物の発生量を削減出来るように継続した呼び掛けを行っていきます。

14. 教育(講習)・訓練の実施



年間計画に基づき各種教育・訓練を実施しています。

教育(講習)では、環境関連法規や廃棄物の選別要領、収集運搬時における安全運転等の教育によりコンプライアンス意識を高め、事故防止に努めています。

訓練内容については、想定される緊急事態について作業手順書に沿って実施しています。

部署	教育項目
各課共通	EA 2 1 活動内容及び環境経営活動における目標の周知
	経営方針教育
	EA 2 1 新入社員教育
業務3課	安全運転・エコドライブ講習
	収集車両における法律的知識の教育
	収集運搬中の火災訓練
	タイヤチェーン装着訓練
業務1課	廃棄物貯留ヤードからの火災訓練
	油類流出時に対する対応
	廃棄物飛散に対する対応
	重機の経済的運転講習
	リサイクル及び廃棄物に関する講習
	職場生活におけるCO ₂ 排出量削減講習(電気、水道、一般廃棄物)

■ 教育（講習）

年度計画通りに教育・講習を進めることが出来ました。
同じテーマを定期的に取り上げることで知識の積み上げが図れました。
また質疑応答時間をしっかり設け、理解度に応じた説明を加えることで、従業員の関心や参加度を高めることが出来ました。



新入社員教育



業務 1 課における教育



業務 3 課における教育

業務1課

業務 1 課では作業員間で知識やスキルに偏りがあった為、資格取得等スキルアップ教育への参加を推進しました。

有資格者が増えることにより作業員間での作業の偏りをなくすことが出来ました。

また知識を広げることにより安全性の確保、作業効率が向上し、重機の経済的運転にもつながりました。

フォークリフト運転技能講習 × 1 名

玉掛け技能講習 × 1 名

低圧電気取扱業務特別教育 × 4 名

粉塵作業特別教育 × 2 名

業務3課

業務3課では安全運転講習や収集運搬における法律的知識の教育（過積載走行の危険性、通行禁止区域、マニフェストの記載方法等）及び廃棄物に関する講習を実施しています。

新人研修に対しては、廃棄物収集運搬に関する基礎知識や収集車両の安全運転について順法精神を高めるとともに、経験が長い乗務員に対しては、危機感が希薄となり日々の業務が漠然とならないように、再度各種教育を実施して緊張感の保持に努めています。

訓練

※手順書の見直しの必要性：無（2024.6.30時点）

タイヤチェーン訓練

実施日2023.11.10 参加人数17名

冬季、安全に雪道走行出来るように、11月に4tコンテナ車を用いてタイヤチェーンの装着訓練を実施しています。乗務員が実際に体験することにより、積雪時にも落ち着いて対応出来るようにしています。



消火訓練

実施日2024.1.30 参加人数12名

処理場内で火災が発生したと想定し、訓練用の水消火器を使用した消火訓練を実施しています。迅速な初期消火対応が出来るように、消火器の使用法、設置場所を再度確認し従業員全員が訓練に参加することで防災意識を高め、いざという時に冷静に対応出来るようにしています。



避難訓練

実施日2023.7.19 参加人数11名

地震や火災といった災害発生時における避難訓練を実施しています。

また、河川の氾濫を想定した避難訓練を実施しています。

実施方法としては、訓練開始日時を非公開にして行い、各従業員が冷静に安全な場所まで避難して、素早く安否確認が出来るようにしています。



15. 環境活動



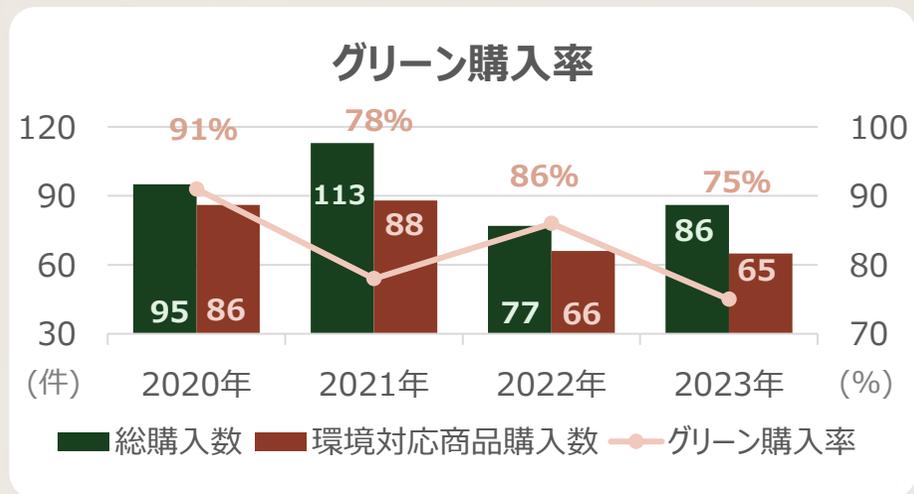
■ グリーン購入の推進について

取り組み内容

- ・購入商品、数量、金額を把握する。
- ・環境に配慮した商品の情報共有を社内で行い、事務用品等購入の際に活かす。

事務用品購入の際は、購入者自身が様々な商品を比較検討する中で、可能な限り環境対応商品を選択するよう心掛けています。環境対応商品の購入率は月別に把握・公開しています。

また、詰替え可能な商品を積極的に利用することにより廃棄物の排出量削減に努めています。



■ 環境配慮への取り組み

太陽光発電



本部ビルの屋上に、太陽光パネルを設置し発電を行っています。発電した電力は即時使用し、余剰分を電気事業者へ売電しています。

節水・節電



水まわりや電気スイッチの付近には節水や節電に関する呼び掛けの案内を掲示し、節水・節電を心掛けています。
 設定温度：夏季25℃以上
 ：冬季23℃以下

■ 美化活動

大栄アメットでは、年に1回の側溝清掃や、月に1回各施設周辺の清掃活動を実施し、地元地域の美化に努めています。

美化活動を通じて、地域の方々との交流や従業員の環境保全に対する意識啓発を目的とし、環境改善を推進しています。

本社周辺の側溝清掃



梅雨時期を前に、地元自治会と連携を取り、本社・本部周辺の側溝清掃を実施しています。

本社周辺の社外清掃



月に一度クリーン活動として、社外清掃を実施しています。空き缶や食べ物の容器、タバコの吸殻が多く捨てられています。



2023年度は 100kg以上のごみを回収しました！

■ みどりの活動

四季折々の花でお客様をお迎えできるように皆でウェルカム花壇の育成に取り組んでいます。毎日の水やりや時期ごとの植え替えを全従業員で分担して行っています。花が咲き終わったら種や球根をとり、次の年に向けて保管しています。植物の変化や成長を日々観察し、達成感や喜びを皆で共有しています。花を通じてお客様とコミュニケーションをとることができ、有意義な取り組みだと感じています。



2023年度から、みどりの活動について各課で競い合う【グリーンアワード】を開催しました。これにより各課内の団結力が高まり、個人でもより意欲的にみどりの活動に参加するようになりました。



第1回グリーンアワード最優秀賞は解体事業課が受賞！授賞式では表彰状、金色のスコップ、粗品が贈呈されました。

各課 グリーンアワードのレポートを提出



■ 健康管理・感染症対策

各課アルコール消毒を常備し感染症予防に努めています。
業務3課では毎朝の始業点呼時に、体温測定を行い点呼記録簿に記入しています。

■ 熱中症対策

夏場の熱中症対策として、処理場では熱中症に対する基礎的知識の教育を実施するとともに、朝礼での注意喚起、各作業員同士が声を掛けあうことでこまめな水分補給や休憩をとるよう心掛けています。

● 環境管理温湿度計を設置

WBGT（暑さ指数）を計測し休憩指示を行っています。



熱中症対策

10時と14時にWBGT温度を計測

30°C を超える場合は	50分作業 10分休憩
<small>(体調不良者及び糖尿病や高血圧の者は作業禁止)</small>	
32°C を超える場合は	40分作業 20分休憩
<small>(体調が万全の者以外は作業禁止)</small>	
34°C を超える場合は	20分作業 30分休憩

指標を掲示しています

● 水分補給の声掛け

20分おきに声掛けをし、こまめに休憩をとり水分補給を行っています。
チェック表を用いて作業員全員が休憩できているか管理しています。

● 現場休憩室に熱中症対策備品を常備

発汗により失われる塩分を補給できるように塩飴を置いています。
発症時に対応するため経口補水液や冷却シートも常備しています。



SDGs 私たちの約束

大栄環境グループは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

・エネルギーの創出



太陽光発電やバイオマス発電等の再生可能エネルギー発電量を高め、地域やエネルギーのクリーン化に寄与

・資源循環の推進



かけがえのない資源であるさまざまな廃棄物を効率的にリサイクルし、資源循環量を高めます

・災害復興支援



迅速な復旧・復興のため災害廃棄物の一日も早い処理を目指します

・森林保全事業の推進



環境と経済を両立させる効率的な森林保全事業を展開し、日本の林業再生に貢献します

・パートナーシップの強化



積極的なコミュニケーションやパートナーシップの強化により、さまざまな社会課題解決に貢献します

・地域循環共生圏の構築



民間の発想による効率的なインフラ整備により課題を解決し地域社会へ貢献します

・2050年温室効果ガス実質排出ゼロへ



事業活動によって排出されるCO₂の排出量の評価、要因分析を行い、排出抑制へ取り組みます

・ダイバーシティの推進



あらゆる人が個性を活かして自分らしく活躍できる職場づくりを進めます

17. 代表者による評価と見直しの結果・指示

【目標・環境経営計画】 【変更の必要性：有】

2023年度の環境経営目標及び環境経営計画については、「上水道の使用量」及び「再資源化率の向上」において年間目標が未達成となった。2024年度は日々の節水についての対策を講じると共に、厳冬期に積雪・凍結防止の為に水を少量ずつ流し続ける点についても他に対策の余地がないか見直すこと。

また再資源化率の向上については、取り扱う廃棄物量や内容物については市場の影響を受けやすく、一概に社内の対策だけで劇的に数値の向上に繋がることは難しいが、外的要因のみに起因することなく、社内で継続してPDCAサイクルをまわし、積極的に活動を行うことにより、環境に振り回されるだけの結果からの脱却を目指していくこと。

年間目標を達成した項目についても、達成して終わりではなく、翌年、5年後、10年後と継続的に改善していけるよう積極的な取り組みを心掛けること。

【環境経営システムの各要素（環境経営方針含むシステム全般）】 【変更の必要性：無】

2023年11月1日付、環境経営方針を改訂しました。

環境関連法規等の遵守確認方法には特段の見直しはありませんが、法改正の際には法令チェックリストの見直しを適宜行っていきます。

【全体を通して】

2023年度の環境経営活動につきましては、2項目において年間目標が未達成となりましたが、その他の項目については概ね計画通りの取り組みができました。

親会社の大栄環境(株)のプライム市場上場に伴い、ステークホルダーの皆様からは、今後カーボンニュートラルを始めとした環境問題にどのように取り組み改善をしていくのか、よりシビアな目線を向けられています。それはグループ会社である大栄アメットにおいても例外ではありません。環境活動と事業活動とのバランスを図りながら、より実効性のある取り組みが社会的に益々求められています。

このEA21の活動を通じて、大栄アメットの業務及び環境活動への取り組みを明確化・透明化することで企業価値の向上を図ります。そのためには、各事務局員が中心となって全従業員の環境活動への参画意識を高め、各自の行動変容に繋がるような効果的な取り組みを計画・実行し、継続的改善に努めてまいります。



大栄アメット株式会社
代表取締役 大田 成幸

資源に変えるチカラ、
自然に還すチカラ。



大栄アメット株式会社